

SCOUTING

2021
No.745

9

来夏に近づく 日本スカウトジャンボリー

コロナ禍での指導者研修事情 全国調査から見えてきたこと

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への協力



CONTENTS

02 来夏に近づく
日本スカウトジャンボリー

04 富士特別野営2021開催延期

05 教えて先輩!

06 スカウトとSDGs
—一緒に行動しよう! 持続可能な社会のために—

08 コロナ禍での指導者研修事情

10 アジア太平洋地域(APR)
コミュニケーション&メディア・ワークショップ

11 シン・広報戦略10本の矢。

12 スカウトソングを歌おう!
—オンラインでのソング活用事例—

13 ボイススカウトPRムービーコンテスト2021

14 全国防災キャラバン2021

15 国際デー～世界と共に考えよう～

16 全国調査から見えてきたこと

18 野外活動のための安心・安全講座
「自分だけは大丈夫」と思っていないですか?
～正常性バイアスと事故・災害～

19 スカウトと信仰
—キャンプでの信仰奨励活動—

19 信仰奨励

20 ローカルホットライン

22 維持会員

22 お詫びと訂正

23 東京2020オリンピック・パラリンピック
競技大会への協力

24 スカウトショップ

来夏に近づく

日本スカウト ジャンボリー

前号巻頭100周年事業の紹介の中でその概要に触れた
第18回日本スカウトジャンボリーの構想について、少し詳しくご紹介します。

■ 新たな様式での大会開催

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、従前のように日本全国から一堂に集まるキャンプ大会でスカウトの安全を確保することは難しい状況があります。このことから、感染症拡大の対策を講じて思う存分スカウトキャンプを行うなど、コロナ禍で停滞している全国の活動が活発になる機会となるよう、次の新たな様式にてジャンボリーを開催します。

1. 一極集中を避けて分散開催

2022年8月7日・8日の2日間をコア期間として、首都圏の中央会場と全国に設けるいくつかのサテライト会場で分散開催します。

2. 東京ジャンボリー大集会

8月7日(日)に全国からの代表スカウトが集まり、全国とオンラインでつないだ一日型のスカウトプログラムを実施します。

3. ジャンボリーサマー2022

夏休み期間を「ジャンボリーサマー2022」と位置づけ、県連盟、地区、団、隊などで行う様々なキャンププログラムを18NSJとして認定します。



大会テーマ

「100⁺f ~自分のfを探せ」

日本連盟100周年の記念大会として、スカウトたちが自ら考えるf (future, friend, family, faith, fun, face, fuji など)を探して未来に向かっていくテーマとします。各サテライト会場等で独自のテーマを追加的に設定することを歓迎しています。

日程

「長期キャンプの実施」という観点から5泊6日間以上のスカウトキャンプを標準とし、各会場の実情に応じて日程を検討します。

参加者

ボーイスカウトおよびベンチャースカウトを主体とし、活動を支援する成人指導者とともに参加します。ガールスカウトおよび外国からの参加者についても検討します。

参加にあたっての要件

- 大会が指定する必須プログラムに参加すること
- 県連盟が定めるキャンプ生活を送ること
- ボーイスカウトの班を編成すること
- ベンチャースカウトは日本連盟が別途定めるプログラムに参加すること

スカウト



プログラム

全国共通プログラムと各会場の特色を活かしたプログラムにより構成していきます。「スカウトの進歩」「パトローリング」「ちかいとおきて」をプログラムの柱として企画し、新時代のスカウト活動の活性化を推進することを意図しています。また、各地の活動が共有できるようICT技術を活用して活動の記録や発信ができるようにします。

1 全国共通プログラム

- 1 日本一プログラム／班対抗によるスカウト技能を競う日本一プログラムを設定する（例：班旗立て、火起こし、手旗など）
- 2 信仰奨励（班や隊でのスカウトタウン・サービスなど）
- 3 SDGs プログラム

2 サテライトプログラム（仮称）

- 1 野営生活
- 2 交流プログラム
- 3 奉仕、地域貢献等 各地域のプログラム



今後の情報

この秋には18NSJの大会情報ページが開設されるほか、ボーイスカウト日本連盟100周年事業として実施される各事業の情報も日本連盟ホームページに掲載予定です。年が明ければ2022年。そして4月からはいよいよ100周年の年度に突入します。記念すべき年の夏を、ともに作り上げていきましょう！



日本中で一緒に スカウトキャンプを

～白川実行委員長からのメッセージ

全国の仲間が楽しみにしている4年に1度のスカウトの祭典であるジャンボリーが、今回初めての分散開催となります。コロナ禍の中でリスクを最小限に抑えながら、いかに全国の仲間の一体感をつかっていけるか、新しいチャレンジです。全国のさまざまなフィールドで、それぞれ同じ夏の空の下で日本中の仲間たちとスカウトキャンプの同じ時間を過ごし、スカウティングの楽しさを分かち合いましょう。

今回のジャンボリーはそれぞれにとって近い場所に参加していただけますので、一人でも多くの仲間がこの全国同時キャンプに参加して、全国の「隊活動を活性化する」機会としてもらえればと思います。

活動プログラムや様々な催しはこれから順次ジャンボリーのWEBサイトなどでご案内していきます。どうぞお楽しみに。

2022年、日本連盟100周年の夏を、全国のスカウトがそれぞれの場所で存分に楽しむ。そんな大会作りに皆さんのお力をお貸しくださいますよう、お願いいたします！

100 
YEARS OF SCOUTING
IN JAPAN

1922 - 2022



富士特別野営 2021 開催延期

今夏に開催を予定しておりました富士特別野営2021は、新型コロナウイルスの感染拡大状況が思わしくないことから、残念ながら2022年3月に開催を延期することといたします。ここでは、今夏に予定していたプログラムの一部をご紹介しますとともに、スカウトと指導者の皆様へのメッセージをお伝えします。

富士特別野営2021概要



日本連盟は、約82万坪の広大な森林に囲まれた「大和の森 高萩スカウトフィールド」において、その特徴を活かしたプログラムを開発してまいりました。

富士特別野営2021では、この広大な山中で、一人で生活するソロキャンプのプログラムを計画しています。孤独の中で、これまでのスカウト生活などを振り返り、これから自分自身が進む道についてゆっくりと見つめ直す時間を提供し

ます。また、スカウトスキルを活用したゲームの他、パイオニアリング、アーチェリーなどのフィールドアクティビティを予定しております。

開催延期に伴い準備期間が増えましたので、東京2020オリンピック・パラリンピックのように、この契機を「+0.5」と考えてさらにプログラムの充実を図り、スカウトの参加をお待ちしております。

ベンチャースカウトの皆さんへ

昨年から今年にかけて、日本全土で新型コロナウイルス感染が拡大し、若い世代への感染も広がりを見せており、いつ終息するかわからない状況が続いています。そのような中、本年2021年8月に高萩スカウトフィールドでの開催に向け準備を進めておりましたが、いまだ感染状況が拡大傾向にあることから、延期とする苦渋の決断をいたしました。

皆さんの隊をおいても、2年にわたり思うような野外活動ができていないことと推察しますが、工夫を凝らして今できるスカウト活動を続けてください。

日本連盟は、ベンチャースカウトのための高度な冒険（ハイ・アドベンチャー）プログラムとして、富士特別野営を隔年での開催ではなく、毎年開催していくことを検討しています。1

週間の野外活動で開催場所に合わせたプログラムを提供する「富士特別野営」に、多くのベンチャースカウトの参加を望んでいます。

プログラムとしての試練を乗り越える体験の中から、信頼や絆の大切さを知り友情を育み、スカウト・スピリット（徳性・忍耐力・気力・清貧）を実践する、ベンチャースカウトが会得できる最高の野外活動です。感染拡大を受け、日本政府の発出している「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」に指定された都道府県においては、制限下における活動を続け、これらの制限が解除された暁には、新しい生活様式を守りつつ、スカウト活動を前進させていきましょう。

全国のベンチャースカウトの諸君、今後開催される「富士特別野営」に参加してくれることを期待します。



日本連盟コミッショナー
福嶋 正己

指導者の皆様へのお願い

日本連盟は、昨年度よりコロナ禍に対応して進歩に関する特別措置を実施しています。本年度より特別措置対応期間を一年間とし、富士スカウト章取得のための支援を行いやすい環境づくりに努めています。さらに、昨年から今年にかけて発行した「スカウトハンドブック」ベーシックとアドバンスは、スカウトスキルを活動時に確認するだけの書籍ではなく、班や隊活動の進め方や隊運営のヒントにつながるよう各章が構成されています。対面での活動が制限されている中でスカウトの

活動意欲を上向かせる方法として、オンラインでの活用や読み物としても推奨しています。

感染状況が改善するには、まだしばらく時間を要すると思われます。過去に開催した富士特別野営では、長期野営の経験が乏しいスカウトの参加もみうけられましたが、この2年間そして今後もそのような状況下にスカウトがさらされることを危惧し、引き続き、開催に向けた検討を続けてまいります。スカウトの活動を停滞させることがないよう、皆様には、お知恵と工夫を凝らしていただきスカウトへのさらなる支援をお願いします。



プログラム委員長
榎原 孝治

延期に関する情報提供について

延期日程や開催延期に伴う追加募集についての情報は、今後、日本連盟ホームページ上で情報を提供いたします。下記のURLを参照してください。2022年の夏には、関西方面で富士特別野営の開催を計画しています。こちららも詳細が決まりましたら、あらためてご案内いたします。

<https://www.scout.or.jp/member/fha2021/>



— 進歩に関する特別措置における取り組み事例 —

各年代における進歩に関する特別措置を2020年5月に発信し、一年が過ぎました。例年実施している団や地域行事へ参加できない、自分たちで企画したハイキングやキャンプが中止になるなど、スカウト活動への支障が出る中でも、個人の進歩に向けて取り組んでいるスカウトたちがいます。今年度、富士スカウト章を目指すベンチャースカウトの取り組みについて、インタビュー形式でご紹介します。

1. 自己紹介（自分のスカウト活動の取り組みや学業への取り組みについて教えてください）

本多峰之（ほんだ たかゆき）さん

京都第79回ローバースカウト・立命館大学1回生

カブスカウトのころからスカウト活動が大好きで、特にベンチャースカウト年代では移動キャンプにはまり、積極的に実施してきました。学業では、AIを専門に学んでおりますが、特定の一つの分野だけでなく、複数の分野に対応できる「なんでも屋」（バーサイタリスト）を目指しています。

富士スカウト章細目である、単独での移動キャンプ計画において、テーマ設定に迷っているときに、家族のアドバイスを受け、隣県である福井県小浜市から京都府大原口に向けてつながる、日本遺産にも認定された「鯖街道」という存在を知り、サバをどうやって食べようかという興味も加えて実施したこのキャンプが今までのキャンプで一番楽しく、また計画から報告まで充実したキャンプとなりました。

2. コロナ禍で出てきた課題をいかにして切り抜けられたのか教えてください

高校3年生のとき、自分の興味ある分野を探求する授業があり、その中で「太陽光発電」をテーマにした研究に取り組みました。このときの、普段の生活に必要な電力量を賄うだけのパネル設置の量や効率といった研究内容をプロジェクトにも活かしたいと考えました。また、国際課題であるSDGsについてボーイスカウトの取り組みを世界スカウト機構のScouts for SDGsのサイトで調べ、自分の団、地区、県連盟に対してその取り組みを広めることでSDGsを普及していくことを目的としたプロジェクトを考えました。

その中でコロナ禍となり、学校の研究自体もままならない状態になってしまいました。自分の性格から、中途半端に終わるものを実施したくないと、テーマから考え直して全く異なるプロジェクトを実施すること

も考えました。しかし、計画が進まない、実行に至らない自分の姿を見た隊長から「初めにあなた自身がやろうと思っていた熱意や自分の想いを大切にすること、そして自分が成長できるかということを大切にされた方がよいですよ」とア



ドバイスをもらい、元々のエネルギーとSDGsのテーマを活かした「エネルギー問題を身近に感じ考える未来の世代を育てるキャンププログラム」の作成へとプロジェクトを改善することができました。

3. この期間で得たことや成長したこと、今後やりたいことを教えてください

隊の議長も担っていたため、学業や部活動など個々のスカウトが忙しい中でも、LINEやZoomなどオンラインを活用することで皆の都合を合わせることが容易になったと感じます。その一方、なかなか対面での活動ができず、会議も開催できないことで、隊メンバーのモチベーションを維持することが難しいと感じました。私は、メンバーから近況報告を聞かせてもらうことが好きで、スカウトの日頃の生活や学校での出来事、自分で挑戦した自宅でのスカウト活動などを報告してもらいながら、こうしてオンラインで集まれるだけでも感謝しないといけない、今まで当たり前に行ってきたハイキングやキャンプをこんなにも待ち焦がれているんだなということに気づくことができました。

ベンチャースカウトとしての期間はわずかですが、ローバースカウト隊に上進してからも、先のプロジェクトで作成したキャンププログラムを実践できるように取り組みたいと思います。また、これから多くの困難や課題が出てくると思いますが、自分自身で目標を発信し続け、やらなければならない口実を作っても行動し続けること、そして周りの人がやらないことにあえて挑戦するような「変わり者」になっていきたいと思っています。全国のスカウトの皆さん、これからも楽しんで、そして挑戦しつづけていきましょう。



プログラム委員会

スカウティングとSDGs

— 一緒に行動しよう！ 持続可能な社会のために —

今号では、新しい環境教育プログラム「Earth Tribe (アース・トライブ)」を紹介します。このプログラムは、スカウトと指導者が自分たちの地域において活動し、課題を見つけること、そして課題に挑戦することによってスカウトの能力が向上することに焦点を当てています。進歩・進級への取り組みに、環境プログラムである Earth Tribe をうまく組み込みながら、団や隊の活動を活性化させていきましょう。



私たちの地球を守る環境教育

Earth Tribe (アース・トライブ) は、気候変動を始めとする、持続可能な社会実現のための課題に取り組む環境教育プログラムです。環境に優しく、健康的なライフスタイルに向けた習慣の定着を推進しながら、自然とつながって持続可能な環境を守ることを目指しています。私たちの日常生活やスカウト活動が、日本だけでなく世界の環境に対して影響をあたえることを確認できる、世界スカウト機構 (WOSM) が提供する世界共通の取り組みです。

Earth Tribe (アース・トライブ) とは？

Earth Tribe に挑戦することで、普段の生活から私たちの地球を守る機会にあふれていること、スカウト活動がいかに自然環境を守る取り組みにつながっていることを知ることができます。

スカウトは、自然とのつながりに気づいたり、持続可能な社会や環境のために行動する方法を学びます。Earth Tribe に挑戦することとは、同じ目的をもって行動するメンバーになることを意味します。

地球の健康を改善し、世界をより良い場所にすることができる取り組みです。2020年から世界中のスカウトが挑戦を開始しています。成人指導者も Earth Tribe の提供するプログラムを推進することによってスカウトと共に Earth Tribe のメンバーになることができます。

なぜ「Earth Tribe: 地球部族」なの？

あらゆる国の文化的、地理的背景を見たとき、おおかたの人類は何らかの部族 (トライブ) に分類されます。部族の一員は互いにサポートしながら、それぞれ個々の道筋を見つけ歩いていきます。部族の存在は「メンバーの結集した力」にかかっています。

現在も、自然とつながりを持ち続けている先住民族がいます。部族は何世紀にもわたって、地球と自然に対する尊敬とつながりに価値を見出してきました。この Earth Tribe は、これらの肯定的なアイデアについて、スカウトを含む若者とともに共有するひとつの方法 (プログラム) として開発されました。

このプログラムは、地球を保護し、保護するための世界的な運動に参加することをいとわない7歳以上の青少年が参加できます。学校の友だちや地域の人々も巻き込んで、この世界的な課題に取り組みましょう。



プログラムの展開方法や環境プログラムの考え方についてまとめた「隊長ガイド」を公開しています。活動のヒントにご活用ください。

どんなプログラムに挑戦できるの？



ネイチャーチャレンジ

Better Choices- 環境への良い選択

環境にやさしく健康的なライフスタイルに向けた持続可能な習慣を開発する。



自分の選択や行動が周囲の環境に与える日常的な影響を振り返るのに役立ちます。このプログラムを通じて、より持続可能なライフスタイルに貢献するために、地域社会とその消費パターンをどのように設計し、適応させることができるかについて、独自のアイデアを開発します。

これを選んで『環境のアドボケート (先駆者)』を目指しましょう。

STEP 1 知る

STEP 2 協力する

STEP 3 実行する

ビーバー
スカウト

- 細目1** 花や野菜などを育てる。※木の葉章 細目(*以下同様)自然1と共通
- 細目2** 簡単な料理をする。※自然7と共通
- 細目3** 「地球温暖化」とは何か家族から話を聞いてみる。

- 細目4** 家で過ごしている中で、自分たちができていることを考え、隊や家族の中で発表する。

- 細目5** 「協力する」で考えた、自宅のできることに期間を決めて挑戦する。挑戦したことは、ノートに記録して、隊や家族の中で発表する。

カブ
スカウト

- 細目1** 良い市民になるためのいくつかの心がまえを説明する。※チャレンジ章 細目(*以下同様)市民イと共通
- 細目2** 絶滅しそう動物か植物を調べ、それを救うためにはどのようなことができるか考えて話をする。※自然保護アと共通

- 細目3** 次のうち1つを実行する。※自然保護イと共通
- 1種類の動物か植物の成長を観察し、スケッチ、写真、図表、記録帳などを使って発表する。
 - 動物園か自然博物館などを訪ね、動物か鳥の1つについて、その特性と食習慣を調べて発表する。

- 細目4** 自分の住んでいる地域内での善行に心がけ、1ヵ月間の実行記録をつける。※市民エと共通

ボーイ
スカウト

- 細目1** 身近に起こっている環境問題について調べ、班または隊で話し合う。
- 細目2** キャンプで使用する食材がどこから来るのか調べる。
- 細目3** 貧困問題について調べ、その原因と解決策について自分たちでできることを班または隊で話し合う。

- 細目4** 環境保護の意義を知り、班または隊で話し合う。※技能章 細目(*以下同様)環境保護章 細目1と共通
- 細目5** 国において市民権とはどういう意味か調べ、どうすればこの国において良き国民になれるか隊長と話し合い、その内容を班または隊で発表する。※公民章 細目5と共通

- 細目6** 環境保護活動に取り組むために計画を立て、実施し、その結果を隊長に報告し承認を受ける。※環境保護章 細目7と共通

ベンチャー
スカウト

- 細目1** 地球環境問題について1つ取り上げ、自分には何ができるか説明する。※公民章 細目2と共通
- 細目2** 「持続可能な開発」について、次の点に留意し、内容を説明できること。※環境保護章 細目6と共通
- 国際的にどのような取り組みが行われてきたか
 - 日本は現在までどのような取り組みを行ってきたか

- 細目3** リサイクルについて調べ、身近でできるリサイクルを通して廃棄物を削減し、集会でその内容を話す。
- 細目4** ボーイスカウト以外の地域に貢献する団体を調べる。
- 細目5** 食料廃棄がなくなるようにするには、どのような行動があるか考え、隊内で発表する。

- 細目6** 持続可能な社会の実現のためにできることを考えて、プロジェクトのテーマとして実施した内容を報告する。※富士スカウト章 細目6として取り組むことができる

ローバー
スカウト

- 細目** ステップ1～3学習目標の順序で、社会環境について持続可能な社会の実現ために地域社会を巻き込んだプロジェクトを実施し報告する。

Earth Tribe では、知る、協力する、実行する、の流れで細目を履修すると、ネイチャーチャレンジのバッジを制服に着用することができます。

バッジの取得を目指して、プログラムに取り組んでみましょう。

※バッジの製作は現在調整中です。販売時期等は別途、ご案内いたします。



わたしたちの地球を守ろう
~Earth Tribe

<https://www.scout.or.jp/member/earthtribe/>

次号は2つ目のプログラム エネルギーチャレンジ
~ Scouts Go Solar 「Clean Energy –グリーンエネルギー–」について紹介します。

コロナ禍での 指導者研修事情

■ 新しい生活様式のもとでの 各研修の運営方針

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、昨年8月末までの指導者養成事業を中止といたしました。その後、9月から指導者養成事業を再開するにあたり、集合訓練における運営方針を、その実施形態に応じて3種類に分類して提示し、各県連盟における指導者訓練の実施における共通認識としました。各県連盟においては、日本連盟の方針に基づき、それぞれの地域に合わせて運営方針を策定していただき、その方針のもとで指導者訓練を実施しております。



訓練の実施方法	講義形式	テント泊	宿舎泊
対象訓練	<ul style="list-style-type: none"> ボーイスカウト講習会 ウッドバッジ研修所課程別研修 	<ul style="list-style-type: none"> ウッドバッジ研修所スカウトコース ウッドバッジ実修所 ウッドクラフトコース 	<ul style="list-style-type: none"> 団委員研修所 団委員実修所
運営方針概要	<ul style="list-style-type: none"> 手指消毒や使用備品の消毒 三密の回避（定員の設定・ソーシャルディスタンス、換気等） 受付時の検温、健康チェック フェイスシールドの活用 等 	（講義形式の内容に加え） <ul style="list-style-type: none"> ソロテントによる宿泊 個食を中心とした献立 なるべく屋外で活動する 等 	（講義形式の内容に加え） <ul style="list-style-type: none"> 宿泊はなるべく個室を確保 個食を中心とした献立 等

集合訓練では、日頃の行動管理を重要視し、コース参加前の2週間については体調管理とともに行動記録をそれぞれ指定のシート（健康管理シート、行動記録シート）に記入し、訓練参加時に提出していただきます。このことを通じて、会食を控え人々が密集する場所に近づかないなど、感染リスクを避けた行動を心がけていただくこととしました。

また、参加者やスタッフ自身に発熱や咳等の風邪症状がある場合はもとより、周りの方に感染の疑いがある場合も参加を見送っていただくよ

う、注意喚起を行っております。

指導者養成事業における新型コロナウイルス感染対策に関する情報については、日本連盟ホームページ上で公開しております。なお、健康管理シートおよび行動記録シートについては、ホームページからダウンロードできます。

<https://www.scout.or.jp/member/training-in-coronavirus/>

昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、予定されていた多くの指導者研修は中止または延期の措置をとることとなりました。この状況下でも指導者研修の提供ができないものかと考え、感染予防対策を盛り込んだ新しい生活様式のもとでの指導者研修が実施できるように運営内容を見直しました。

コロナ禍であっても、スカウト運動を支える指導者の皆様には、自然の中で野外活動を通して自身が様々な体験を行い、スカウトたちが実際に活動することを体験することが大切である

と、指導者養成委員会では考えています。研修によってはオンラインによる方法を採用する場合がありますが、実際に集まって体験を共感することが重要であるという考えのもと、集合での研修を進めていくこととしました。コロナ禍でも安全で、安心して研修に参加できるように、柔軟な対応と検討を行ってまいりますので、ご協力のほど、よろしくお願い致します。



指導者養成委員長
栗田 哲郎

**Scouting
Never
Stops!**



■ 所員、スタッフ会議

コロナ禍の中での指導者研修で、最も変化したことは「事前のスタッフ会議」だと思います。対面で会議を行うメリットが多くあるのも事実ですが、感染予防の観点からオンライン開催とするメリットは大きく、今ではオンラインでの会議がベーシックなものとなっています。

ただ、会議の種類や内容、また参加人数によっては、オンラインでの会議で効果が見込めるものと、そうでないものもありますので、いろいろな方法を試しながら運用が進められています。

オンライン会議のメリット

- 資料の事前共有、直前の資料差し替えが容易になった。
- 繰り返しの活用で、対面に近い形での意思疎通が図れることが分かってきた。
- スタッフが会議のため移動時間や交通費などを支出する必要がなくなった。

対面会議における変化

- 事前の体調管理のほか、マスクの着用、会場の換気、距離の確保などのケアを行うこと。
- 必要に応じてパーティションを設置することなどの対策を講じること。
- できるだけ短時間で済ませるように意識すること。

■ 研修の様子 [ボーイスカウト講習会]

ボーイスカウト講習会は、7時間程度で実施し、指導者研修の導入部分にあたります。スカウト運動の成り立ちや実際にどのような活動が行われているかなど、ビデオを視聴したり、参加者同士が実習として「班」の一員として活動したりします。感染防止としては、基本的な対策（マスクの着用、手指の除菌）を行うとともに、机の配置などを工夫して参加者同士1メートル程度の距離を保つようにし、配布物も、決まった担当者が事前に机に置くなど、できるだけ人の手を介す機会を減らすなどして展開しています。特に気を遣うのは、食事の時とグループワークの展開時です。

今回紹介する講習会では、食事（おにぎり2個、飲み物、お手拭き）は一人分を袋詰めして配布し、個別に携帯できる除菌用スプレーを用意しました。



■ 研修の様子 [ウッドバッジ研修所スカウトコース]

ウッドバッジ研修所スカウトコースは、3泊4日のテント泊を通してスカウトキャンプの魅力を経験できるコースです。野外の活動が主で、班の一員として設営、炊事、キャンプクラ



フトなど、さまざまな場面で共同作業が行われます。感染防止の基本的な対策（マスクの着用、手指の除菌、手洗い）を行うとともに、参加者には適度な距離を保つことを心がけてもらいます。屋外での活動ですので、密にはなりにくいのですが、大きな声で叫んだり、息が上がったりするような活動をするると飛沫が広範囲に拡散することがあるため配慮が必要で、客観的に参加者やスタッフの動きを管理できる、感染予防対策の専従スタッフを配置するなどの対策を講じています。炊事と食事の場面では、炊事担当者を2人に限定して食材や食器への接触機会を減らすことや、食事の際に黙食を基本としたうえでテーブルにも飛沫防止のシートを掛けるなどの工夫をしました。

■ 研修の様子 [コミッショナー研修]

現在、コミッショナー研修の見直しを進めており、今年度は3泊4日のテント泊で実施しました。コミッショナーはスカウト運動の“担い手”として指導者への指導や助言を行うために、自らが新しい研修を受け、「自分の言葉」で支援できるようになることをコースの目的としております。

室内の講義では対面にならないように「コの字型」に座席を設定し、グループワークもホワイトボードを使い密にならないように工夫しました。野外での基本動作のセッションでは、間隔をあけて集まり、握手や集散法などは手を触れないように実施していました。スカウトタウン・サービスでは密にならないように各人が注意を払い、ソングは声をはらず、話も

静かな朝の空気の中で大声を出すことなく展開しました。

キャンプサイトは各班2サイトを確保し、生活スペースと個人テントによる宿泊スペースに分けました。これは、会場である那須野営場を、他の利用者がいない状態で十分に使用させていただくことができたお陰だと感謝します。

残念だったことは、ソングはCDを流し「心の中で歌ってください」としたこと、また、キャンプファイアの歌も大きな声で歌えなかったことがありました。大きな声で、みんなで一緒に歌える日を心待ちにしております。



指導者養成委員会



報告 アジア太平洋地域 (APR) コミュニケーション&メディア・ワークショップ

新型コロナウイルス感染拡大に伴う行動規制により、世界中で、スカウト活動も厳しい制限を受けています。日本連盟では、「Scouting Never Stops」の合い言葉のもとに、形を変えた活動の継続とコミュニケーションを模索してきましたが、他の国々のスカウト連盟でも、さまざまな取り組みが行われています。

世界スカウト機構アジア太平洋地域 (APR)^{*1}では、昨年来、オンラインワークショップを開催しています。今回は、APR コミュニケーション・パートナーシップ小委員会主催「スカウト活動とコミュニケーション & メディア」のワークショップで、各国スカウト連盟のローバー年代スカウト、若手リーダーらによる事例の紹介がありました。7月29日から3日間、各日、400人前後の参加がありました。今号では、ワークショップの目的として掲げていた3つのジャンルにまとめてご紹介します。

1. 活動内容の共有コンテンツ作成とデジタル技術の選択

香港 ワクワクするようなブランドイメージとイベントを創る。ターゲットとなる閲覧者を見極める。危機管理、ダメージ・コントロールも準備している。スカウト、青少年向け (若年層)：SNS (インスタグラム、YouTube など)。保護者、一般向け (中高年層)：SNS (フェイスブック、YouTube など)、ウェブサイト。学校、教育機関、指導者向け：公式刊行物。

インドネシア 「スカウトはみんなリポーター」というプロジェクトを2018年から続けている。従来のメディアだけでなく、SNS、デジタルメディアも駆使して、すべてのスカウトからのニュー

ス、写真、動画の発信を奨励。

フィリピン フィリピンスカウト・アマチュア・メディア協議会による SNS と動画共有プラットフォームを活用したキャンペーンを展開した。「BPサイバー・ジャム2021」というオンラインイベントには数千人のスカウトと指導者が Zoom、フェイスブック・ライブ、YouTube で参加。

台湾 SNS の使い分け。フェイスブックは、重要な情報の通知と活動紹介。インスタグラムは交流を主として、活動紹介、情報通知、スカウトの話、エピソードなど。

2. 各国連盟による教育キャンペーン、若者の発信強化のための媒体の活用

南アフリカ アフリカ地域からの参加 「青少年インフルエンサー・プログラム」^{*2}では、一般社会に向けたスカウト体験の発信という往年の課題と併せて、さらにローカルなスカウトの話題をコミュニケーションのチャンネルにのせることと、青少年の意見を地域社会の中で強めていくことも課題としている。地域ごとのスカウトのオンラインコミュニティも構築。

パキスタン 「青少年議会」の取り組み (2015年-2021年)。テレビ、フェイスブック、YouTube などの電子媒体を使って、討論のスキル向上を促している。

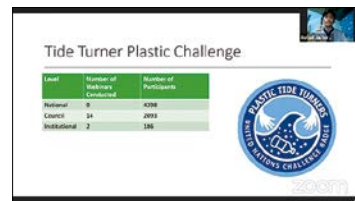
マレーシア スカウトらによる、医療支援、ワクチン接種支援、食糧支援などの様子をまとめたプロモーションビデオを作成し、ソーシャルメディアなどで公開している。

3. 各国連盟広報機関によるコミュニケーション・ネットワーク構築

バングラデシュ 2020年からは、従来のスカウト活動、イベント情報に加えて、新型コロナウイルス啓発キャンペーン、コミュニケーションを展開し、スカウト、指導者、関係者との情報の行き来が増えた。啓発リーフレット210万部発行、フェイスブック・ページの閲覧者数が1,000%に増加、インスタグラムの閲覧者数が493%に増

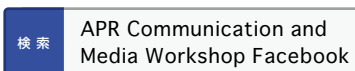
加、1,000時間以上のライブビデオストリーミングを達成。

フィリピン スカウト活動のイメージ普及のために、3種類のメディア (印刷物、配信、インターネット) を使用したアプローチを強化。2021年前半には、ウェブページの閲覧者数が53%増加。うち63%が新規訪問者。



スカウト自身による発信や、ターゲットの見極めなど、団、地域から全国、世界まで、さまざまなレベルでのコミュニケーションを推進し、スカウト活動を発信していく際の参考になる情報や取り組みがありました。そして何よりもシン・広報戦略 (本誌11ページ参照) にも通じる内容でした。

ワークショップの中では、コミュニケーション手段としての媒体 (メディア) の具体的な利用について、世界スカウト機構広報担当者からの発表もありました。すべての動画は、下記よりご覧いただけます。



社会連携・広報委員会

*1 Asia-Pacific Region, WOSM (APR)：アジア太平洋地域。世界スカウト機構に所属する地域の一つ。ボーイスカウト日本連盟もこの地域に所属する。2021年1月現在30の国と地域が所属する。

*2 インフルエンサー：誰か、または何かに影響を及ぼす人物。特に、製品やサービスの潜在的購買層に、ソーシャルメディアを通して影響を与えることができる人物。

シン・広報戦略

10本の矢。

社会連携・広報委員会が2017年から「新・広報戦略10本の矢」として新たなPR戦略の取り組みを始めてから4年。昨年来の新型コロナウイルスの蔓延により人々の交流のすがたは大きく変わり、私たちの活動の現場にさまざまな影響がありました。その反面、オンラインツールの活用など今までなかった手法を取り入れることができましたし、「自然活動」「体験活動」への社会的なニーズが高まっているのも事実です。そのような「いま」にフィットする「矢」をつがえ、社会からのニーズに応えていこうではありませんか。

シン・
10本の矢
広報戦略

- ➡①➔ BVS、CS や、VS、RS といった部門にあわせた広報の促進
- ➡②➔ 「すべての情報を Web へ」—SAJ Web サイトからのダイレクト発信
- ➡③➔ SNS の活用促進（ターゲットに合わせた情報発信）
- ➡④➔ SAJ 公式 YouTube の活性化 ～動画を用いた訴えかける広報を
- ➡⑤➔ 機関誌「SCOUTING」の刷新と発展 ～Web コンテンツとのW体制拡充
- ➡⑥➔ 団情報ページの積極的運用で「問い合わせ」数増加へ
- ➡⑦➔ オンラインツールの活用で、スカウティングを「止めない」・「広げる」
- ➡⑧➔ 「PR ドリームチーム」ネットワークの活用
- ➡⑨➔ かつてのスカウト・かつての指導者を呼び戻す
- ➡⑩➔ 地域からいかに支援を得るか—参考事例の共有

これらの「矢」は、従来からの「10本の矢」をもとに、コロナ禍の中での社会状況にあわせて整え直したもので、目指すべきものに大きな違いはありません。重きをおいたのは、昨年から始まった「Web 会議環境無償提供プログラム（現：デジタルツール配布プログラム）」等の活用により、私たちの活動がオンラインでも展開できるようになってきたことをいままでも以上に推し進めていくことと、ターゲット（勧誘の対象年代の児童やその保護者）のニーズを見つめ直すことです。その中で、つい「どんな活動をしているのか」となりがちなところを、BVS や CS 年代においては「なにを目指した活動であるのか」、VS や RS では「この教育を通じて成長した姿」に重点を置いた取材・広報を展開することが、結果的に BVS、CS 年代の組織拡充に資するものになることが期待できます。

今号ではまず現状の広報戦略についてご紹介し、その具体的な内容については、紙面では紹介しきれない部分も含めて動画にてご紹介する準備を進めています。その中で、日本連盟が

用意する「矢」を各県連盟・地区・団においてどのように活かしていただくかをお伝える計画です。

「コロナの影響で思うように活動が展開できない」「募集活動も進みにくい」という声をよく聞きます。その反面、コロナ禍が長引くことも影響しているのか、私たちの活動はいま、近年になく、注目を集めています。昨年度に展開した「ワクワク自然体験あそび」の申し込み総数は18,000人に迫りました。また、今年4月～7月期の日本連盟への体験・入団希望の問い合わせ件数は997件と昨年同期比で約2倍。新型コロナが世に蔓延していなかった一昨年の同期と比べても約1.5倍と、ボーイスカウト運動に対する興味・関心が回復してきていることが感じられます。

そのニーズをしっかりとキャッチし、また、まだ「この街でボーイスカウトが活発に活動していることを知らない」人たちにしっかりとアピールしていくためにも、皆でこの「矢」を活用していきましょう。



社会連携・広報委員会

スカウトソングを歌おう♪

-オンラインでのソング活用事例-

コロナ禍での飛沫感染を防ぐため、思うように歌えない状況が続いていますが、そんな中でもスカウトソングを歌う方法として、オンラインでのソングの活用事例、歌で教えるソング研修等を紹介しします。今だからこそ、いろいろな工夫をして歌声を広げましょう。

『しりとりにゲーム』 スカウトソングで繋ぐ

組や班、グループ対抗ゲームとして実施/司会進行役：
隊長または上級班長やデンコーチが行う

- 1 司会は、隊で使う歌集の中から曲を指定して、スカウトは、マイクオフにしてその曲を歌う。
- 2 司会は、適当なタイミングで『1グループ、チェンジ!』と声をかけ、文字を指定する。
- 3 1グループ(組や班)のスカウトは、『チェンジ!』の声に合わせて、指定された1文字から始まるソングを、歌集の「歌いだし索引(うたいだしさくいん)」から探し、歌の題名をコメントする。

4 司会は、1グループのスカウトがコメントした中から曲を指定する。

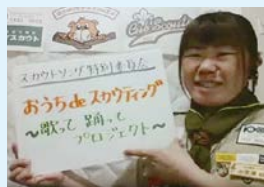
5 1~4を繰り返す中で、2グループ、3グループが歌集でソングを調べる機会を作る。

6 最後に、歌った歌を最初からおさらいして、つなげて歌う。

- グループのリーダー(班長や組長)は、歌ったソングを手元でメモしておきましょう。
- ゲームを通して新しいソングを知るきっかけになります。新たに10曲を目指しましょう!

オンラインでも 活用しやすいソング

オンライン集会では、通信環境の違いから声がずれたり、音声が届かなくなると、皆で一緒に歌うことが難しいです。そんな中でも、歌いやすい・活用しやすいソングを紹介します。



同じメロディを追いかけて歌うソング

- 1 司会は、指揮をしながら歌い出す。

2 スカウトは、司会の後を追いかけて一斉に歌う。

候補曲/ビーバーコール、カブコール、大きな歌、山賊のうた、なかよしの輪、森のくまさん

歌の一部を指名して歌うソング

1 司会は、手拍子後の歌いだしや一定のルールでのかけ声など、歌詞と前後の動作を説明する。

2 司会の動作に合わせて、スカウトが歌い、ソングを完成させる。うまくいったら、全員で拍手!

展開例

ソング名称

(使用する歌集)



指導者の歌いだしや合図



スカウトのアクション

やおやのおみせ

BVS

「よくみてごらん、考えてごらん」(このあとスカウトを指名)
「マサヒロくん」

「(指名されたスカウトが)トマト」「(みんなで)トマト」
(どンドン新しい野菜を加えていく)

いつも元気

CS

「ぼくらも 口ぶえふいて〜」

(パン、パンと、手拍子を入れ)「いつも元気!」

一年中のうた

BVS CS

「おめでとう〜」
「おめでとう、マサヒロく〜ん」(月の部分を誕生日の人の名前にしても良い)

「一月〜」(前半と後半で歌うパートを分ける)
「はい」(指名されたスカウトはうれしいポーズを)

アイアミジョロロ

CS BS

「マサヒロくん ジョロロ」、[2組 ジョロロ] など

(ウーンの4拍の間に)
「マサヒロです!」「2組です!」など

※ マイクオフでも、各自がそれぞれ歌えるのであれば、小さくても歌声を出すことが大切です。オンラインを活用して、スカウト、組や班のパフォーマンスを競い合ってみましょう! みんなで新しいアクションを作成し、創意ある展開を考えてみましょう。

研修 「歌で教える」 スカウトソング

スカウトソング章の細目(1)に『正しく歌える』とあります。『正しく』とはどのような意味でしょうか? もちろん、楽譜通りに歌うことは『正しく』歌うことですが、この言葉には、歌詞の意味や曲想(曲が出来た経緯、曲の背景など)を理解し、歌詞にふさわしい歌い方をする、という意味も含まれています。

そこで、歌詞の言葉の意味を探究したり、曲想を調べたり、スカウトソングを深く知るといって、“歌で教える”スカウトソ

ング研修として行ってみたいかがでしょうか。

思うように歌えない現状の中でも、指導者の皆さんにはスカウティングの中で『歌で教える』という意味を今一度考えていただきたいと思います。ソングに興味を持たせる、指導者に意識させる方法として挑戦してみてください。スカウトソングは、スカウト精神に触れる身近なツールであることを再認識しましょう。

スカウトソング特別委員会



ボーイスカウト

PRムービーコンテスト2021

本年で5回目となるボーイスカウト PR のためのムービーコンテスト。これまでのコンテストでは、スカウト活動の魅力を伝える素晴らしい作品が多くまわっています。動画の撮影・作成は、スマートフォンやパソコンのソフトなどが発達することにより昔に比べてとても簡単に行えるようになりました。また撮った動画を他の人に見せることも簡単です。本コンテストにおいても YouTube や SNS を使って気軽に応募できるようになっています。しかし、その手軽さや便利さの裏側には危険も伴います。今号では、動画の撮影や公開時の注意点を理解することで、楽しく安全に動画を作り、多くのご応募をいただけることを願っております。

競え、
クリエイター



本コンテストに向けて、スカウトたちが動画を撮影し、音楽を利用することが多いと思います。注意すべき点については、しっかりとそれぞれの隊・団の指導者の皆さまから指導していただき、楽しく盛り上がるコンテストとなるようご協力をお願いいたします。

社会連携・広報委員会

ポイント1 SNSで公開するその前に

SNS で公開することは「不特定多数に見せること」になります。誰かを傷つけたり、誰かに傷つけられたりしないよう、映っている人たち全員の合意を得ること、そして、仮に本人が意図せずに映りこんでしまった場合はその動画は使わないなどの対応が必要です。また、撮影した写真や動画に映りこんだ建築物や風景から自分たちの居場所を特定されるケースもあります。特にスマートフォンを使った撮影ではGPSの設定もよく確認し、トラブルに巻き込まれないように注意しましょう。

チェック
しよう

- 動画に登場する人には了承を取りました。
- 場所を特定されないよう工夫しました。

ポイント2 音楽やイラストを使う際には

音楽などを使用する際は、著作権について意識しましょう。著作権は著作者にあり、著作者とは、「作者および制作にたずさわった人や会社」を指します。音楽や映像に加え、イラストや画像を使う際も著作権に注意が必要です。動画の作成には、音楽を利用することが一般的だと思いますが、フリー素材のように、二次利用や私的利用が許可されているものかどうか、利用の条件を確認し、ルールに従いましょう。

チェック
しよう

- 音楽やイラストの利用ルールは守っています。
- 著作権フリーであっても利用条件を確認します。

ポイント3 スカウト活動における写真や動画

本コンテストはボーイスカウトの PR となる動画を対象としています。スカウト活動の魅力を伝えるために、この活動の主役であるスカウトたちの良い表情、良いシーンを使用するケースが多いと思いますが、18歳未満のスカウトが映る動画を使う際は保護者の了解を得る必要があります。しっかりと保護者の方とコミュニケーションを取りましょう。また、うまく撮れた写真や動画は「いつか使うかもしれない」という気持ちでしっかりアーカイブしておくことで、それぞれの隊や団の SNS などでも効果的にスカウト活動の魅力を発信することができるでしょう。

チェック
しよう

- ボーイスカウトの PR になる動画になりました。
- ムービーコンテストに関して保護者の了解を得ました。



募集期間 **7月1日～10月31日**

テーマ **Skill** スキル / **Entertainment** エンターテインメント / **SDGs** 持続可能な開発

応募方法 応募いただく動画を YouTube やその他各種 SNS にアップロードし、日本連盟 WEB ページ上の「応募フォーム」よりご応募ください。

詳しくは日本連盟 WEB ページをご覧ください。昨年の入賞作品もご覧ください。

<https://www.scout.or.jp/member/prmc2021/>





AEON

家族で体験！防災プログラム

全国防災 キャラバン

全国防災キャラバン2021

「全国防災キャラバン」は、必ず起きるといわれている大規模災害に備えるため、地域の防災意識や、子どもたち一人ひとりの「備える力」を向上させることを目指し、全国のイオンのご協力により毎年開催しています。2020年は全国的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響により「オンライン形式」での開催となりましたが、本年度は感染症対策に留意しながら従来と同様、全国のイオンモール等を会場に開催いたします。

■ 本年度の全国防災キャラバンのあらまし

東日本大震災から10年を迎えた本年3月28日に、被災地でもある福島県いわき市のイオンモールいわき小名浜においてキックオフイベントを開催しました。いわき市の新妻英正副市長より本キャラバンへの力強い応援メッセージをいただき開幕。地元の社会福祉協議会、警察、海上保安部などによるご協力もあり大盛況のうちに終了しました。

本年度は共通プログラムの新しいテーマとして「思いやり防災」を掲げています。災害が起きた時に、体力の衰えた高齢者や障がいのある方、妊婦、乳幼児だけでなく、日本語を話せない外国人の方など、困難を抱

えていて、支援が必要となる方への理解を深めようというものです。

また、本年度より「ボーイスカウトの災害ボランティア」というパネルを設置しています。東日本大震災をはじめ、これまでの多くの災害に際して、被災地だけでなく全国のスカウトがボランティア活動や募金活動を行ってきた歩みや、私たちの不断の準備を紹介するものです。

災害時に役に立つボーイスカウトの知識やスキルを、地域の子どもたちやその家族を対象に提供することで、地域の防災力の向上に寄与しています。



■ これまでの全国防災キャラバンの歴史

2015年、山口県きらら浜で開催した「第23回世界スカウトジャンボリー」の 프로모ーションとして、広島ピースプログラム“ORIZURU”プロジェクトを展開しました。その際、同大会を一般の方にも知っていただく機会として、「全国 ORIZURU キャラバン」を全国のイオンモール店舗等で開催したことから始まりました。翌年の2016年より「全国防災キャラバン」に名称を変え、イオンのご協力を得ながら地域の防災力向上を

ねらいとして事業を展開してきました。その中で、前年に大規模な災害が発生した地域などでキックオフイベントを行い、社会に私たちの防災にかける思いを発信してきました。

前述のとおり2020年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により特設サイトでの映像コンテンツの配信等による「オンライン形式」での開催となりましたが、本年度は現在のところ全国約80会場での開催を予定しています。



国際防災デー

10月13日

International Day for Disaster Risk Reduction

世界中の人々が、災害に対して日頃から備えを充実させ、災害の予防や被害を減少させること、そして、直面するリスクを抑えることの重要性について認識をたかめることを目指して、1989年から始まった国連デーの一つです。

日本を含め、世界では突発的に発生した災害により毎年多くの方が、住んでいる地域からの非難を余儀なくされています。その大きな原因の一つが気候変動であり、持続可能な社会の実現に対して悪い影響を及ぼしています。

2015年3月に仙台市で開催された、第3回国連防災世界会議において、国連加盟国により2030年までの国際的な防災指針「仙台防災枠組(Sendai Framework)」が採択されました。この国際デーでは、この枠組みの7つの目標に焦点をあて、毎年達成に向けたキャンペーンを展開しています。

日本連盟では、全国防災キャラバンを全国のイオンモールの店舗を利用して実施し、地域の家族や子どもたちに比較的身近な防災について考える機会を提供しています。また、技能章の一つである「防災章」では、集中豪雨や土砂災害などの風水害発生時の初動について説明できること、といった近年の気候変動による災害に備えさせることを細目の一つとしています。

SDGsと同様に、国際的な課題を把握しつつ、自分たちの地域に対して何ができるのか、友だちや家族、スカウト仲間と共に考える機会にしてみたいかがでしょう。

世界の課題に気づき、それらに対してスカウト自らが行動するために、まずは「知る」ことから始めましょう。



<https://www.scout.or.jp/member/international-days/>

■ これまでの開催実績

2015年	全国 ORIZURU キャラバンを47都道府県47会場で開催
2016年	全国防災キャラバンに名称を変え、47都道府県56会場で開催 東日本大震災から5年の節目として、宮城県・イオンモール名取でキックオフイベントを実施。佐々木名取市長にご来場いただく。
2017年	全国防災キャラバンを47都道府県69会場で開催 平成28年(2016年)熊本地震から1年の節目として、熊本県・イオンモール熊本でキックオフイベントを実施。荒木嘉島町長にご来場いただく。
2018年	全国防災キャラバンを47都道府県67会場で開催 2014年に発生した豪雨により大きな被害を受けた広島県において、イオンモール広島祇園でキックオフイベントを実施。
2019年	全国防災キャラバンを47都道府県63会場で開催 平成30年7月豪雨から1年の節目として、岡山県・イオンモール倉敷でキックオフイベント実施。伊東倉敷市長にご来場いただく。
2020年	オンライン開催のみ
2021年	47都道府県で80会場以上の開催予定

私たちが地域や社会との協同を図ろうとする場合、「防災」という視点はとても有意義なものであり、また、それが地域や社会が必要としていることであるからこそ、イオンとの社会連携が実現しているのです。

本年も全国各地で展開される「全国防災キャラバン」。その趣旨やスカウト運動の公益性、そして社会との協同という点などご理解いただき、広く社会に発信していきましょう。

「ぼうさいこくたい」への参画

「防災」という面での社会との連携は、「全国防災キャラバン」だけにとどまらず、「防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)」という内閣府等の事業にも参画しております。2019年10月に愛知県で開催された際にはブースを出展した実績があり、本年11月に岩手県釜石市で開催予定の今年度の本事業にも、全国防災キャラバンと連携して参画できるよう準備をすすめています。

社会連携・広報委員会

■ 災害時にも安全・安心を提供する施設づくり

当社は、安全・安心なまちづくりを行うため、常にお客さまの安全を第一に万全の対策を講じるとともに、行政や民間企業などの外部パートナーとの連携を強化、地域の防災拠点としての役割を果たしています。

国内では、ほぼ全モールで地方行政と防災活動への協力などに関する協定を締結し、有事の際は協力してインフラ整備や物資提供などの支援をおこない、復興拠点としての役割を果たします。

そしてこれらのインフラと同じくらい大切なのが地域の皆さまの防災への意識です。当社では、子どもたちを通じて、そのご家族

や地域の防災意識の向上につなげていきたいとの思いで、2016年より全国のボーイスカウトの皆さまと「全国防災キャラバン」を共催しております。

次代を担う子どもたちを中心にそのご家族一人ひとりが楽しみながら防災を身近に感じる事ができるこの取り組みはとても大切だと考えております。

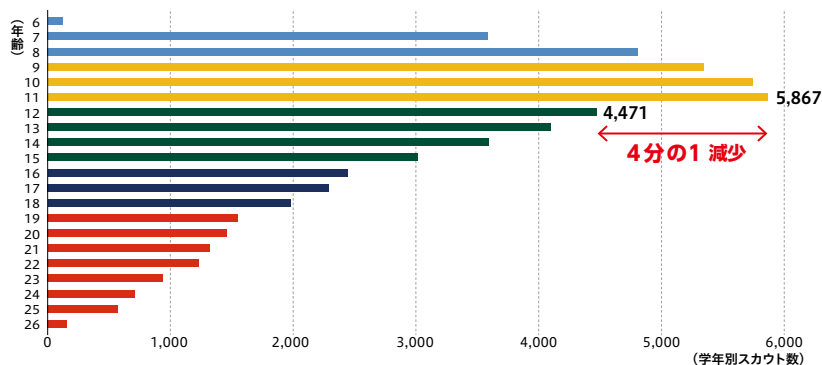
今後も当社は、ボーイスカウト日本連盟と共に、地域社会に貢献して参ります。

全団調査から見えてきたこと

日本連盟では2019年度・2020年度に全団を対象としたスカウトの進級や入隊上進に関する調査を行いました。この全団調査は、2019年度の日本連盟事業計画に基づき、推測ではなくエビデンス（根拠）をベースに中途退団抑止に有効な対策を検討するため実施したものです。ここでは、2回の全団調査から見えてきたものを通して、すべての指導者が取り組むべき課題を紹介します。

■ 全団調査2019から分かった中途退団の傾向と対策

上進のタイミングがポイント

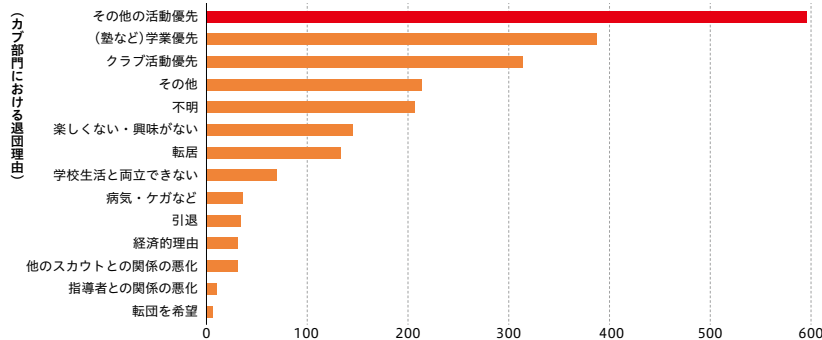


全団調査では、加盟登録データから学年別のスカウト数・新規入団数・中途退団数を集計しました。新規入団はほとんどがカブ隊までで終わりますが、中途退団はローパー隊までずっと続いており、退団者数が入団者数を上回ることによって、スカウト数の減少が起きていることが分かります。

この運動から離れてしまうスカウトは、上進時期に退団しています。上進の学年で退団することだけでなく、上進時期の近い月で退団しているのです。とりわけ、

カブ隊からボーイ隊への上進で4分の1が退団しているのは、ボーイスカウトの本格的な活動を知らずにこの運動から離れているということです。とても残念なことですが、運動として十分に使命を果たせていないといえるのではないのでしょうか。上進しない背景には、ボーイスカウトに対する保護者のイメージと、教育を提供している側のイメージにギャップが存在し、これを埋める必要があると考えられます。

この運動から離れていく理由は、その他の活動を選んだこと



ビーバースカウト・カブスカウトの中途退団理由としては、「その他の活動優先」が最も多く、さらに「その他の活動」を詳細に見ると「習い事」「スポーツ」が多いことが分かります。

これは、保護者や一般社会では、ボーイスカウトがその他の活動と同じに見られて

おり、ボーイスカウトが、勉強や他の活動がめざす測定可能な「認知能力」とは違い、自尊心、自己肯定感、自立心、自制心、自信さらには、協調性、共感する力、思いやり、社交性、道徳性など、測定できない「非認知能力」を養っていることが伝わっていないと考えられます。



保護者はカブまでで十分「楽しんだ」と思っているが、本当はその先に本格的な「教育」がある

■ ボーイスカウトに対する保護者のイメージ



■ ボーイスカウト教育を提供している側のイメージ



考えられる対策

BVS・CS 部門の保護者に BS 部門以上の活動を伝える

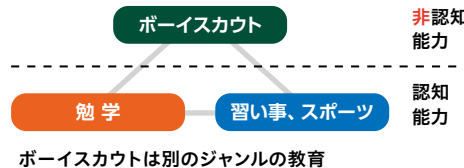


保護者や社会はボーイスカウトを習い事・スポーツと同列に見ているが、「教育」の観点からは「非認知能力」を養う別のジャンルの教育である

■ 保護者（一般社会）のボーイスカウトに対するイメージ



■ ボーイスカウト教育を提供している側のイメージ



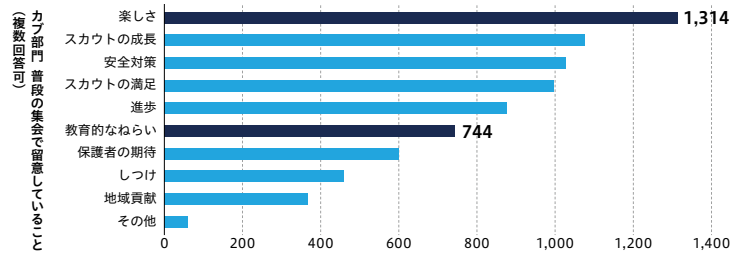
考えられる対策

保護者や一般社会に BS 以上の活動の価値をしっかりと伝える

■ 全国調査2020から分かった活動状況

ボーイスカウト教育の方法や価値を正しく伝えることができ、保護者や社会から期待されるようになったとしても、前頁の「ボーイスカウト教育を提供している側のイメージ」のとおり教育が行われていなければ、期待に応えることができません。

全国調査2020では「普段の集会で留意していること」という質問を設けました。その結果、「楽しさ」が最も留意されていて「教育的なねらい」の倍にのぼることが分かりました。楽しくなければ活動からスカウトが離れていきますが、楽しい活動を通じて教育するのがボーイスカウトであり、教育的なねらいをどう楽しく実現するかが求められます。それは、指導者の資質が大きく影響するところだと思われそうですが、今回の調査で「教育的なねらい」のチェックが少ないのは、単に「楽しさ」を求める活動になっていることではないかと危惧されます。それは「ギャップ その1」の「保護者のイメージ」を助長するかもしれません。保護者の希望に沿っているようで、実際には、教育としての期待に応えていないことになりそうです。



考えられる対策

保護者や社会の期待に応えられる活動を考える

■ さらに詳しく知るには

全国調査2019については、詳しい分析をまとめた報告書を作成しています。報告書には、右に記載する中途退団抑止特別委員会からの提言を掲げています。この提言のうち①～④については本誌上に述べてきましたが、提言を実現するには団の戦略的な取り組みが欠かせないことから⑤の提言を挙げました。さらにそれを支えるのはコミッショナーであることから⑥を挙げています。委員会としては、団への支援としてセミナーや各種ツールを提供していますので、あわせて活用してください。

その他、各団から寄せられた「中途退団抑止事例」も多く掲載しています。（例：習い事との両立に悩んでいたが、スカウト活動の良さ「家庭ではできない体験」を保護者に理解してもらい、継続することになった）報告書は日本連盟 Web サイト（以下の URL、QR コード）からダウンロードしてご覧ください。

https://www.scout.or.jp/member/surveyreport_scoutgroup2019/

また、全国調査2020については、県連盟コミッショナー、地区コミッショナーが自ら分析できるよう統計データを県連盟に提供していますので、各県連盟において今後の施策に活かしてください。

中途退団抑止特別委員会からの提言

- ① BVS・CS の保護者に BS 以上の活動を伝えよう
- ② 一般社会に BS 以上の活動の価値をしっかり伝えよう
- ③ 保護者への説得力を高めよう
- ④ 保護者・社会の期待に応えられる活動をしよう
- ⑤ 団を維持するためにすべきことを考え、実行しよう
- ⑥ コミッショナーの支援を受けよう



日本連盟が2019年度、2020年度に実施した「全国調査」では、全国の団の皆様にご協力いただき貴重な示唆が得られました。さらに2年続けたことにより、全国の団の活動状況が見えてきました。改めて皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

中途退団についてはスカウト自身の活動に対するモチベーションの低下や、保護者の皆様にスカウト運動を十分に説明できていないことが大きな原因となっています。当委員会ではこれらを看過できない重要な要因と捉え、日本連盟コミッショナーにも報告し、全国県連盟コ

ミッショナー会議などを通じて、地区コミッショナー、団担当コミッショナーによる定期的な団診断（団の健康診断）の重要性を強調していただいています。

コロナ禍の中ではありますが、今あらためて日々の活動の意義を見つめ直しながら、スカウトとの心の密を深め、スカウトの笑顔のために引き続き活動にお取り組みいただきますようお願いいたします。

中途退団抑止特別委員会 膳師 功委員長



■ 野外活動のための安心・安全講座

「自分だけは大丈夫」と思っていませんか？ ～正常性バイアスと事故・災害～

1. はじめに

スカウト活動を行う際は、「あらかじめよく考えておく」、すなわち事故につながる場面を想定した準備を行うことが安全対策として重要です。また、これまで『野外活動のための安心・安全講座』に掲載された事故の事例を参考に、事故が起こった場合の対応策、ルールを考えておくことも重要です。スカウト活動に限らず、日常生活の多くの場面で、事故や災害に遭遇した場合を想定して避難訓練などの安全対策や避難指針などの対応策、ルールが策定されています。そのような状況にも拘らず、災害の規模が大きくなってしまふことがあります。それはなぜでしょう？

2. 心のメカニズム（無視と過小評価）

「正常性バイアス」という言葉をご存知でしょうか？ バイアス (bias) とは、傾向、偏向、先入観、データの偏り、思い込み要因、情報の偏りによる認識の歪みを意味します。例えば、全国の世論調査を行う場合に、ある地域の、ある特定の年代に対してだけ調査を行うようなことがあれば、本来の結果から偏った結果になってしまいます。このような場合のデータ（調査）の偏りをバイアスと呼んでいます。「正常性バイアス」とは心理学の用語で、人間の判断や認知、意思決定における恣意的なバイアスの一つで、自分に都合の悪い情報を無視したり、それを過小評価したりしてしまう心理的な特性を指します。事故や災害が起きた際に、「ありえない」、「自分（たち）は大丈夫」、「今回は大丈夫」、「まだ大丈夫」と考えることが「正常性バイアス」といわれています。過剰に反応してパニックにならないための心のメカニズムで、人間の心のある程度まで平穏に保つために必要な反応ですが、度がすぎると、回避行動や避難行動の遅れにつながるものが指摘されています。

普段のスカウト活動では、新しいプログラムよりも、これまでに何度も取り組んでいる慣れたプログラムの方が「正常性バイアス」に入り込みやすいかもしれません。何度も実施しているので事故など「ありえない」、慣れたプログラムなので「自分（たち）は大丈夫」、これまで何も起こらなかったで「大丈夫」。危険な場面に遭遇しても、とっさに回避行動を取れるくらいまでになっていれば良いのですが、そうでなければ「正常性バイアス」によって対応が遅れることがあるかもしれません。

3. 日頃の訓練の大切さ（やはり、そなえよつねに）

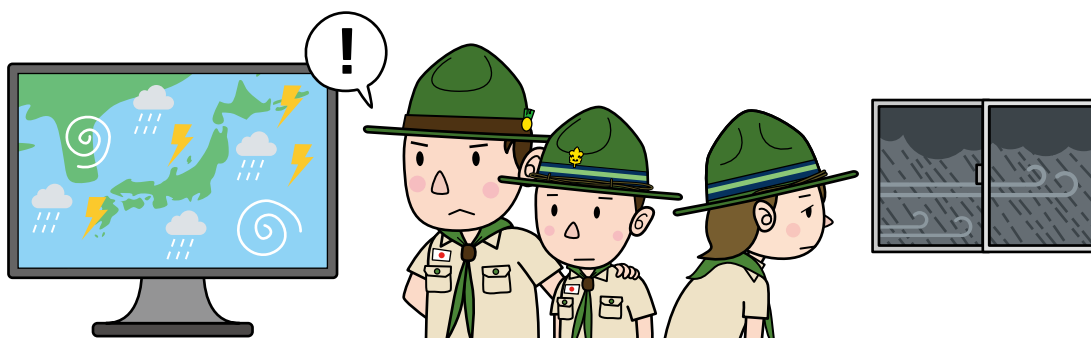
令和3年5月20日に災害対策基本法が改正され、災害時における円滑かつ迅速な避難の確保を図る趣旨から、自治体が発令する避難情報が増えられました。これまで災害発生情報、避難指示、避難勧告、避難準備などさまざまな情報で災害の警戒を知らせていましたが、近年の大雨・集中豪雨に伴う大規模災害において、避難勧告のタイミングで避難せず、逃げ遅れにより被災する者が多数発生したり、避難勧告と避難指示の違いが、十分に理解されていなかったことの反省に基づくものです。5月20日からは、緊急安全確保、避難指示、高齢者等避難などの具体的な指示となり、避難指示では該当地域のすべての人が避難することになります。

今回の改正で災害が減少することを期待するばかりですが、「正常性バイアス」の働きは考慮しておかなくてはなりません。これまでそんな災害には遭遇していないので「ありえない」、「大丈夫」。そんな考えが避難の遅れにつながったと考えられる災害の事例はこれまでもたくさんあります。野外活動、特に不慣れな場所での活動の際には注意が必要です。「正常性バイアス」に陥らないためにも、日頃の訓練、そなえよつねに、が重要です。



出展：新たな避難情報に関するポスター・チラシ（内閣府）
http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline/pdf/poster.pdf

「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会



スカウティングと信仰

—キャンプでの信仰奨励活動—

今号では、宗教団（カトリック）の夏の隊キャンプをありのままに紹介させていただきます。といっても皆さんと同様のボーイスカウトのキャンプをしていると思っています。ただ、同様とされていることの中に、信仰奨励活動のヒントとなるものがあれば幸いと思い、数年前のボーイ隊キャンプについて記すことにします。

1. 計画

キャンプの計画時、信仰奨励については、ミサとスカウトOWN・サービスを計画に盛り込みます。団の所属教会の神父様が長く滞在頂けるように、神父様のご予定とキャンプの日程との調整とミサの日程を組みます。

当団では神父様は団委員として登録させて頂き、団の精神的指導者（カトリックではスピリチュアルリーダー）としてスカウトだけでなく指導者にも貴重なアドバイスをしてくださる、とても大切な役割を担って頂いています。

2. 準備・出発

出発当日、団がある教会に早朝から集合し、隊備品、班備品、個人装備を整えます。リーダーもスカウトも、見送りの保護者の皆さんも何か慌ただしい落ち着いた時間です。集合の笛が鳴り、いよいよ隊キャンプの出発セレモニーが始まります。聖堂に入り、神父様よりお祈りや送り出しの言葉を頂きます。ほんの数分のことですが心が落ち着き、一人ひとりがこれから行くキャンプの安全や無事や目標を思う、とても大切な時間です。不謹慎かもしれませんが、忘れ物を思い出すのもこのときです。

3. 活動

屋頂キャンプ地に到着して昼食となります。班ごとに分かれ、あちこちから食前のお祈りの歌が聞こえてきます。リーダーも集まってスカウトに負けない声で歌って食事をします。

♪「日々の糧を～、与えたもう～、めぐみのみ神はほむべきかな～、アーメン、いただきま～す！」これは私の所属団では、食前のお祈り



炊事場で食事準備をされる神父様

として必ず歌う讃美歌です。食事のときに班長以下班員全員が食卓についたら合唱し、皆揃って食べ始めます。

その後、開会式、設営、炊事、夕飯、ナイトゲーム、就寝準備、グリーンバー会議、消灯、とプログラムは進みますが、この間ずっと神父様はスカウトの近くにおいて手伝ったり、会話を楽しむなど、スカウトと接して下さり、そのことを通じて神様を身近に考えるようになるのではないかと思います。神父様が「僕は焚火が好きだ」と言いながら焚き木拾いや薪割り、火起こしを楽しんでいることもスカウトには何か影響があると思います。

二日目の夕方に「ミサ」を野外で行いました。キャンプに参加できたことへの感謝と無事安全に過ごせるようにと、ミサに与かります。ミサは神様に賛美と感謝を捧げる儀式です。儀式を通じてイエス様が行ったことを思い起こし、神様と共にいることを再認識します。と同時に、共にミサに参加している人々やすべての人たちとつながっていることを思う、大切な礼拝がミサです。また、スカウトは野外ミサの準備で祭壇や十字架を作り、ミサの進行を手伝い、これらが宗教章の項目の履修にもなります。

「キャンプファイア」では皆でスカウトソングから新しい歌まで楽しく歌ったり踊ったり、班ごとの出し物を見て大いに楽しめます。

4. 帰営・片付け

撤営は、残すものは感謝のみ。閉会式で弥栄をしてキャンプ地を後にします。教会に到着し片付けをし、無事に帰着できたこと、多くの経験や楽しくキャンプを過ごせたことを聖堂で感謝し、神父様とお祈りの時をもって終了します。

野外生活での多くの体験を通じて、技術や知恵を学び、人との関わりを学び、そして神様の存在を感じとり、神様が創られた自然や命、地球を大切に思う気持ちが育まれると思います。そのような活動ができるような日々が早く戻って来よう、皆さんお祈りしましょう。

信仰奨励委員会

さあ、沖へこぎだそう！

信仰奨励委員会 飯盛 安信

今夏、全国のカトリックスカウトが、「時間」と「場所」を超えてひとつになることを目指した、全く新しい形のキャンポリー、第12回「全国カトリックスカウトキャンポリー」を開催します。

会場は「あなたがいるところ、私たちがいるところ、どこでも」、期間は2021年6月から10月の間で、スカウトは集まることなく、御家庭や団・隊・パトロールの単位でプログラムに参加する新しいチャレンジです。「さあ、沖へこぎだそう - スカウトのみちを -」のテーマのもと、スカウトはいのちあるものを大切に生きる航路（みち）を快活に進みます。

キャンポリー参加団には3つのミッションが用意されており、全国のカトリックスカウトが協力して、3年後の次回キャンポリーに向けて漕ぎ出す一つの船を作ります。

- ① 一人ひとりの願いや希望を記した「祈りのリボン」を作る。
- ② ほかの人に幸福を分け与えるために、自分ができることを一つ決めて、団ごとに「寄せ書き」を作る。
- ③ 2個団間で「きょうだい団」の交流をし、次回大会での出会いを期待する。

全国から「祈りのリボン」を集めて船のオーラに結び、団の「寄せ書き」は「ちかい・やくそく」の大きな帆にし、閉会式で奉納され、次の大会へと受け渡されます。どんなに小さなことであっても「人のために善いことを行う」スカウトのみちを進むのです。（開会の祝福式での稲川圭三神父のご挨拶より抜粋）

9月の「スカウトの日」を迎えるにあたり、ほかの人に幸福を分け与えるため、自分ができることを一つ決めて、実行につながるような集会をしてみたいかがでしょうか。

残念ながら、まだ集まらない日々が続く、短時間の集会はできるようになっても、地区や県、国レベルでの集会、ましてや宿泊を伴う行事の開催は難しい状況が続いています。指導者のみなさんは、時間と場所を超えて、スカウトの心が一つになるよう苦心されておられると思いますが、それぞれの場で元気に沖へこぎだしましょう！

ローカルホットライン Local Hot Line

団・地区・都道府県連盟だより

- … 団
- ☒ … 地区
- … 都道府県連盟
- ◇ … その他



岡山 □ 団で初！チャレンジ章全制覇！

新見第1団 カブ隊隊長 中川 友理奈

この4人組は本当に仲が良く、いつも楽しく活動に取り組んでいました。チャレンジ章もたくさん取得し、後方に立っている彼は団で初めてチャレンジ章すべて制覇し、更に新チャレンジ章も取得しまし

た。今年度はボーイ隊に上進した4人です。なかなか思うように活動できない中ですが、これからも元気いっぱい活動に取り組んで欲しいと思っています。

ボーイスカウト 八千代第4団



FMふくろう85.8 こどもしんぶん (2021年6月号)

千葉 □ ふくろうキッズ放送局

八千代第4団 ベンチャー隊隊長
村瀬 智弘

八千代第4団は、これまで八千代市のコミュニティFM「ふくろうFM」に度々、出演させて頂いてきました。今回は、ボーイ隊の女子スカウト3名が3度目となる収録に挑戦！これまでの活動の思い出や、コロナ禍での活動の工夫などを話しました。

スカウトが何を話したいか考えた内容を、事前に担当の方と一緒に台本を作成し、今回も思い出に残る収録になったようです。記事のQRコードを読み込んでいただくとYouTubeでも放送の内容を聴くことができます。是非、お聴きください。

岐阜 □ 指導者の皆さん、スカウトソングを元気に歌っていますか？

岐阜第11団 団委員長 高橋 晴美

わが団では、大先輩指導者（元リーダートレーナー・故武山幸隆さん）のご指導「リーダーが歌わなければ、スカウトは歌わない」を堅実に守り、長年隊集会の開会セレモニーで、団委員やインストラクターの楽器演奏で、さまざまなスカウトソ

ングを歌っています。

まずは、リーダーが一番気に入った一曲からでいいので、スカウトが自然にくちずさむまで、根気よくくりかえし歌っていきましょう！



山形

■新聞に掲載されました

山形県連盟

ボーイスカウト県連盟
三脚信号塔設置
リーダーら訓練
ボーイスカウト
寒河江
ト県連盟(松田
隆仁理事長)のリーダーた
ちが指導技能を高めるスキ
ルトレーニングが18日、寒
河江市の長岡山で行われ、
丸太で高さ約4級の三脚信
号塔を造った。

リーダーらが三脚信号塔を造
ったボーイスカウト県連盟の
スキルトレーニング
寒河江市・長岡山



山形新聞 (2021.7.9)

ボーイスカウトは屋外体
験を通し自主性や協調性、
社会性などの生きる力を育
む。三脚信号塔は上部から
手旗信号を送るための構造
物。この日は県連盟所属の
各団から、子どもたちを指
導するリーダーと大学生隊
員の計11人が参加した。
3本の丸太を交差させた
ものを二つ組み合わせた構
造で、上部には三角形の足
場を設置。息を合わせてロ
ープを引っ張り直立させ、
約2時間をかけ完成させ
た。鈴木義夫さん(68)「山
形市第1団」は「はし」で
上る際は揺れたが、出来栄
えはいい」と話した。今回
のトレーニングの成果は各
団が高校生隊員の活動など
で生かす。(黒田良太)

岐阜

□ボーイ隊2021
夏キャンプ優秀賞

岐阜第11団 団委員 加藤 憲

わが団では、団の支援として優秀賞を毎年提供
しています。授与して家庭に持ち帰って思い出に
なるものやキャンプその他で使えるものを手作り
しています。今年はハンドアックスやかまどのミニ
チュアのほか、ご飯よそい用竹製しゃもじを用意
しました。

今回はその内の1つ、4日目の最優秀賞を紹介
します。いつも家型テントを作っているので、今回
は今風にドームテントにしてみました。班旗も立っ
ていますよ。(ただし、4こ班のどこが最優秀賞をとるか
分からないから、わが団にないうさぎ班にしてあります)



大阪 □アルコール手指消毒フットペダルマシンの作成

大阪第85団 ボーイ隊隊長 森 浩輝

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、対面
での活動が難しい中、皆が安心して、早く活動を再
開するためには、どのようなことができるだろうか。

と一人のボーイスカウトが自
主的に考え、YouTube やイン
ターネットなどで作り方を調
べ自己流にアレンジして、アル
コール手指消毒のフットペダ
ルマシンを作成しました。足
でポンプを踏むと、手指の消
毒に適量の消毒液が出るもの
です。

まずビーバースカウトにこ
のマシンの使い方と簡単に消
毒することができることを伝
えると、ビーバースカウトが

ぎつぎと並び、楽しそうにポンプを踏んで積極
的に手指の消毒をしてしてくれました。作成したスカ
ウトからは皆の役に立っていることに喜びを感じる

ことができたとのことでした。

団委員さんからも「消毒液
がちょうど適量出るところが
いいね」との声もあり、団全
体で「消毒する大切さ」を学
ぶきっかけになり、これまで
とは違う環境の中で、自分た
ちは何ができるのかを考える良
い機会となりました。

次は、隊の仲間と一緒にも
っと使いやすい”改良型”を
考えて作成したいと話してい
ます。



維持会員(敬称略)

スカウト運動を財政面からご支援いただいている個人・法人会員のの方々です。

ご支援ありがとうございます

2021年5~6月度

【宮城】	井坂 聡	(株)スガキ工業所
野中 孝三	足立 和郎	【静岡】
松岡 健美	前島 正彰	大橋 光男
【秋田】	大久保 哲雄	川島 一郎
佐川 芳子	伊藤 郁夫	村松 武博
【群馬】	落合 友幸	【愛知】
奈良橋 俊宏	蜂谷 一夫	近藤 博
藤井 春俊	塩野 浩史	佐野 守彦
大川 由明	若松 滋俊	船橋 鐸夫
小堀 剛	B S 寒川 2	石坂 純一
【埼玉】	【東京】	吉野 博樹
西山 繁夫	田中 隆	牛野 北斗
綱島 宗和	岡村 貴	BS半田4育成会
鈴木 俊明	額谷 征幸	根木クリニック
寺田 典昭	石黒 秀彦	根木 浩路
B S 上尾 9	平方 敏道	【三重】
B S 飯能 3	貝津 晴信	吉田 則幸
【千葉】	上森 俊治	【兵庫】
高橋 昭二	【新潟】	山田 知輝
針谷 誠一	関川 憲司	川勝 賢一
【神奈川】	渡辺 明紀	佐藤 征一郎
鈴木 令子	島津 延明	喜多 敬
濱田 雅弘	【福井】	三木 美真子
吉川 純	前田 健一	苦瓜 一夫
鈴木 武道	酒井 善秀	高橋 貞美
境 紳隆	【岐阜】	中島 佳一
中川 和之	本多 健司	日下 孝明
吉田 章	高井 史樹	山田 明良

南 秀生	能登 祐一郎	伊藤 健児	大西 美紀	【大阪】	【沖縄】
伊野 操治	伊木 紀世子	的 地 豊	井口 展明	加藤 繁	里平 秀彰
堤 正	中川 清司	宮本 潤子	長 延行	高見 篤志郎	【日本】
黒田 茂	安藤 雅夫	桑 渕人	山本 由美	【鳥取】	向田 吉彦
荒川 清治	亀山 隆	高田 真志	伴地 広和	高嶋 壯司	奥島 孝康
池田 純雄	稲本 佳嗣	中野 まり	木下 弘	【愛媛】	和田 勝久
清水 秀彦	谷垣 憲滋郎	田中 昭	鹿島 克弘	龍田 純孝	伊賀 保夫
安積 英二	橋本 龍二	宮井 達也	西井 秀行	堀田 利知	笹 真子
有末 幸弘	赤方 由久	今津 章	阿江 隆幸	【長崎】	水戸守 雅之
南平 榮一	北方 茂	澤崎 勇嗣	藤井 章乗	江崎 辰男	
長 八洲翁	下岡 光治	細川 和彦	【奈良】	藤田 孝	
高橋 正幸	吉中 知子	尾田 勝重	高橋 成男	【熊本】	
中村 謙二	笠原 章雄	清川 ひとみ	(有)芝浦照明	永田 英樹	
平池 邦夫	田頭 英一				
池田 好信	米国 守				
大庫 俊介	小玉 一夫				
名越 亮	野々村 禎之				
田邊 千尋	喜多村 憲一				
後藤 良二	射延 敏昭				
木原 光信	瀧川 高章				
斎藤 聖一	中内 仁				
上野 康夫	藤原 健資				
辻本 誠	片山 光明				
岡田 十一	松尾 光彦				
野村 勝美	高田 幹生				
岡本 浩	進藤 勝人				
高木 敬三	枝根 秀男				
林田 平八郎	大古 和子				
糟谷 晃弘	藤川 晴代				
山口 裕子	水谷 光明				
諸戸 純治	有末 和弘				
光永 宣之	三木 千穂里				

マンスリーサポート維持会員
 毎月1,000円から、クレジットカードでの自動引き落としによる維持会費のお支払いが可能です。
<https://www.scout.or.jp/support/04/>
 5~6月に入会または1年継続された方々です。

【北海道】	【栃木】	【愛知】	【鳥取】
下條 俊太郎	斎藤 明美	澤 朋宏	中尾 圭介
【岩手】	【群馬】	小林 弘幸	【岡山】
小守林 靖一	小茂田 岳広	【京都】	平井 清志
【宮城】	【埼玉】	井上 義雄	【山口】
高山 雅光	高橋 義人	【兵庫】	野坂 朋克
【秋田】	【千葉】	山本 浩介	【日本】
吉田 司	児玉 春美	【奈良】	小守林 靖一
【山形】	光延 健秀	佐藤 之雄	
太田 浩	【東京】	【大阪】	
	星月 一人	水戸守 雅之	

お詫びと訂正

本誌7月号 (No.744) 18頁に掲載した「野外活動のための安心・安全講座 東日本大震災10年 ~地震列島日本に暮らす~」の記事において、岩手県釜石市と宮城県石巻市を誤って記載しておりました。多くの方々に不快な思いをおかけしましたことに、深くお詫びを申し上げます。また、本文中の表現が適切ではないとご指摘をいただき、それを改めるとともに、一部データ類の誤記も改めました。今後このようなことのないよう、原稿執筆陣、編集担当者ともども連携を深め、記事記載内容の確認体制を改めてまいります。日本連盟ホームページに掲載しておりますデジタル版18頁に、誤記を改め、またお詫びと訂正を加えた修正版の記事を掲載しておりますので、ご参照ください。

https://www.scout.or.jp/scoutingmagazine/_userdata/issue/202107.pdf



SCOUTING **次号予告** 次号の『スカウティング』は、2021年11月1日発行

特集 **ユースの力 ~次世代の担い手たち**

初のオンライン開催となった8月の第14回世界スカウトユースフォーラムには、日本からは5人のローバースカウトが参加。また RCJ の活動など次世代の社会を担う青年スカウトたちの活躍をご紹介します。

なんでも投稿先

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟事務局『スカウティング』投稿係

〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3 電話 03-6913-6262 (代表) FAX 03-6913-6263 Eメール scouting@scout.or.jp

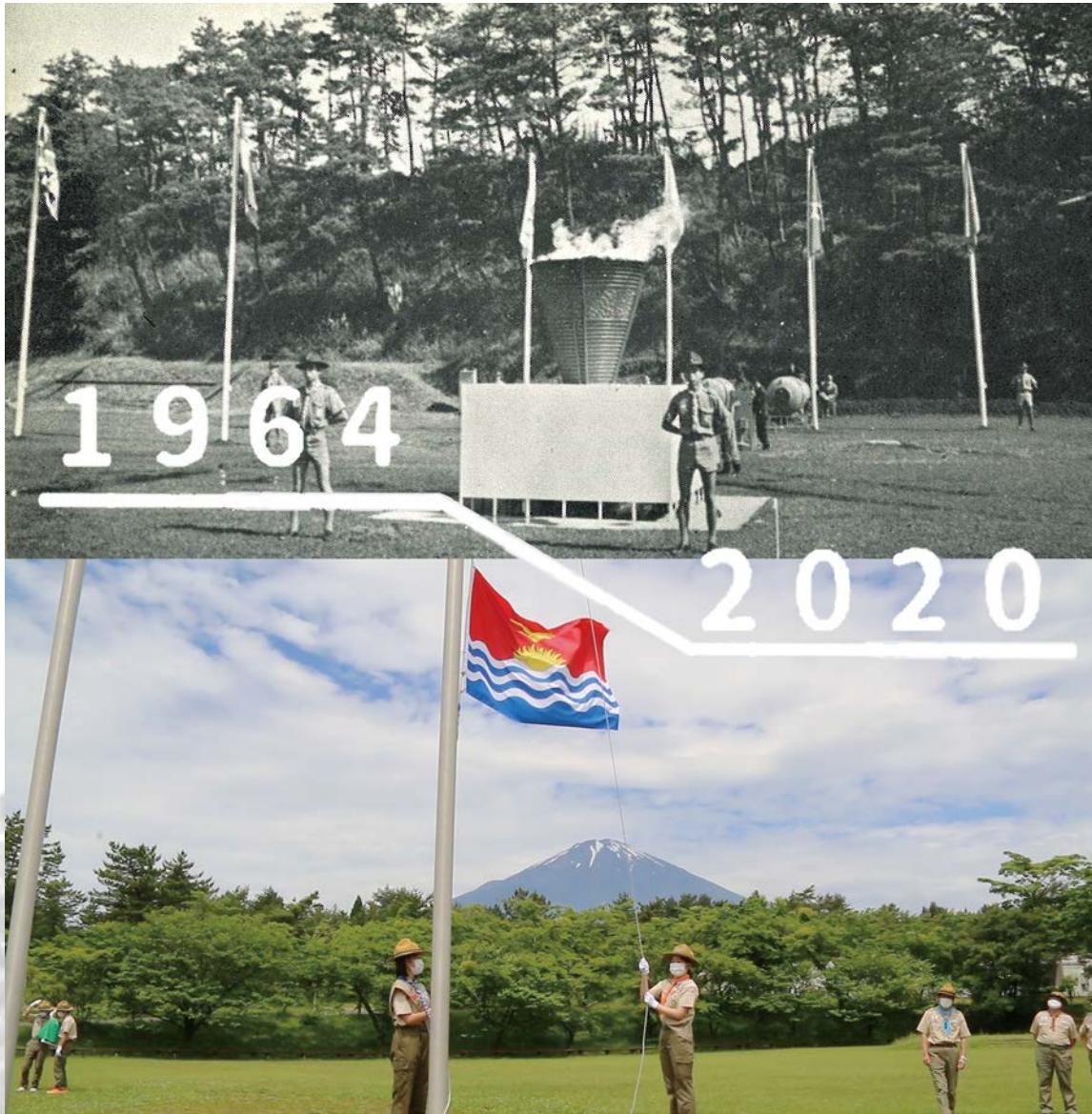
投稿規定 / 本誌では読者の皆さまからの投稿を常時受け付けています。投稿が掲載された方には、掲載誌と記念品をお送りしています。投稿は、文字数400字で写真3枚を目安にしてください。新聞掲載記事は、新聞名、掲載日を明記してください。なお、お送りいただいた写真や新聞記事は原則として返却しませんのでご了承ください。お送りいただいた投稿は、抜粋しての使用や一部を編集させていただく場合があり、また掲載できない場合もあります。あらかじめご了承ください。たくさんのお投稿をお待ちしております。

日本連盟ホームページ <https://www.scout.or.jp>

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟『スカウティング』2021年9月号 No.745 令和3年9月1日発行 (奇数月1日発行)
 発行 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3 <https://www.scout.or.jp>

「スカウティング」は、全国のボーイスカウト指導者(隊指導者、団委員、スカウトクラブ構成員、地区・県連盟・日本連盟役員)に1冊お送りしています。加盟登録住所にお送りしますので、住所の誤り、変更がある場合は団での登録住所変更の手続きをお願いします。登録システムに伴い、①4月~8月に新規、追加登録申請が承認された場合:5月号から当該月号を同封にて送付(例:8月承認の場合は9月号に5月号、7月号を同封) ②9月~翌年3月に登録申請が承認された場合:11月号から当該月号を同封にて送付。9月以降の「追加登録」で、5月号~9月号をご希望の場合は、日本連盟事務局社会連携・広報担当にご相談ください。バックナンバーの在庫がある場合は有償でお送りいたします。発行月の前月10日以降は、送付作業工程に間に合わないため、当該月号は次号に同封されます。なお本誌の購読料は、登録料に含まれています。上記以外にも別途購読いただくことが可能です。詳しくはボーイスカウト日本連盟ホームページ <https://www.scout.or.jp> から、スカウティング誌のページをご覧ください。

©公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 2021 写真、イラスト、記事のコピー・複製・転載を希望される場合は、日本連盟事務局社会連携・広報担当(代表 TEL:03-6913-6262)までご連絡ください。



世界の選手団を全国のスカウトでお迎えしました

東京2020オリンピック・パラリンピック 競技大会への協力

全国のボーイスカウトとガールスカウトが力を合わせた国旗掲揚による動画で、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に参加した200余^{*}の国や地域の選手団を歓迎しました。

^{*}参加予定国等を含む211の旗を掲揚

2020年の大会開催準備段階では、選手村の開村式において全都道府県連盟の代表スカウトによる国旗掲揚奉仕の準備が進められていましたが、大会延期が決まり、さらにコロナ対策強化のため開村式も実施されないこととなりました。

感染拡大のリスクを抑えながら、世界から集まってくる選手たちを日本中で歓迎する方策として、各国旗を全国各地で掲揚する様子を一本の動画にまとめるというプランが組織委員会から出されました。

緊急事態宣言下での世界的な大会の開催に対して様々な意見もありましたが、それでも厳しいトレーニングを重ねながら多くの支障を乗り越え、世界から大会に集まってくれた選手たちにホスト国として礼を尽くそうと、ボーイスカウト、ガールスカウトでこの歓迎動画制作に協力することになったのです。

旗の配布から2週間ほどしか時間がなく、かつ梅雨時期の撮影で、各県連盟にも大変ご苦労いただき、また地域の状況により残念ながら撮影に参加できない県連盟もありましたが、無事にすべての旗の掲揚動画撮影が完了しました。これらは世界の国や地域から来日した選手団を歓迎するウェルカム動画にまとめられ、選手村に設けられた多くのデジタルサイネージで大会期間中繰り返し上映されていたそうです。またこの動画は大会のホームページでも公開されました。

一つひとつの動画はごく小さな枠でしたが、全国の様々な状況の中でスカウトたちが掲揚したそれぞれの国の旗の様子は、各国の選手団を温かく迎え、勇気づけたことでしょう。

開催国のスカウトとして今回の奉仕に協力してくれた皆さんに、お礼！

ボーイスカウトが担当した旗 【担当県連盟】

アイスランド【北海道】/アゼルバイジャン【新潟】/アメリカ【沖縄】/アルジェリア【埼玉】/アルバ【富山】/アルメニア【石川】/アンティグア・バーブーダ【石川】/イエメン【福井】/イタリア【埼玉】/イラン【長野】/インドネシア【神奈川県】/ウクライナ【神奈川県】/ウルグアイ【神奈川県】/英領バージン諸島【兵庫】/エジプト【千葉】/エスワティニ【神奈川県】/エリトリア【神奈川県】/オーストラリア【神奈川県】/オマーン【神奈川県】/ガーナ【東京】/ガイアナ【神奈川県】/カタール【静岡】/ガボン【京都】/ガンビア【静岡】/北マケドニア【静岡】/ギニアビサウ【静岡】/キューバ【埼玉】/キリバス【静岡】/グアテマラ【千葉】/クウェート【千葉】/グレナダ【千葉】/ケイマン諸島【東京】/コートジボワール【熊本】/コソボ【愛媛】/コロンビア【埼玉】/コンゴ民主共和国【東京】/サモア【香川】/ザンビア【徳島】/ロシア・オリンピック委員会【東京】/シエラレオネ【長崎】/ジャマイカ【東京】/シリア【佐賀】/ジンバブエ【長崎】/スウェーデン【大分】/スペイン【鹿児島】/スリランカ【兵庫】/スロベニア【兵庫】/赤道ギニア【兵庫】/セルビア【埼玉】/セントビンセント・グレナディーン【兵庫】/ソマリア【兵庫】/タイ【埼玉】/台湾【東京】/タジキスタン【兵庫】/チェコ【兵庫】/中央アフリカ共和国【兵庫】/チュニジア【島根】/チリ【滋賀】/デンマーク【三重】/トーゴ【岐阜】/ドミニカ共和国【岐阜】/トルクメニスタン【山口】/トンガ【広島】/ナウル【岡山】/ニカラグア【鳥取】/ニュージールランド【和歌山】/ルウェー【千葉】/ハイチ【兵庫】/パナマ【愛知】/バハマ【愛知】/バミューダ【千葉】/パラグアイ【東京】/パレスチナ【愛知】/バングラデシュ【愛知】/フィジー【愛知】/フィンランド【愛知】/ブエルトリコ【愛知】/ブラジル【埼玉】/ブルガリア【青森】/ブルネイ【岩手】/米領サモア【宮城】/ベトナム【秋田】/ベネズエラ【福島】/ペリース【山梨】/ベルギー【群馬】/ボスニア・ヘルツェゴビナ【栃木】/ボリビア【茨城】/香港【茨城】/マーシャル諸島【佐賀】/マダガスカル【福岡】/マリ【奈良】/マレーシア【埼玉】/南アフリカ【福岡】/シアンマー【埼玉】/モーリシャス【奈良】/モザンビーク【奈良】/モルディブ【京都】/モロッコ【京都】/モンテネグロ【東京】/ラオス【東京】/リトアニア【東京】/リヒテンシュタイン【東京】/ルーマニア【東京】/ルワンダ【東京】/レバノン【東京】/難民選手団【東京】

^{*} 掲載順・国名等表記は組織委員会のリストによる。国名等では一部略称を用いた。

前回1964年東京大会での奉仕についても日本連盟ホームページで少し紹介しています。

🔍 ボーイスカウト オリンピック 2020

オリンピック・パラリンピックへの奉仕は、この国旗掲揚動画のほか競技会場が設けられた各地域や、聖火リレー等関連事業など、各県連盟や地区、団での奉仕の機会もありました。各地での活動についてぜひ皆さんからのご報告をお寄せください。



YEARS OF SCOUTING
IN JAPAN
1922 - 2022



SCOUTING 2021/9 745

スカウトイング
昭和53年12月15日 第3種郵便物認可
令和3年9月1日発行（奇数月1日発行）

100th Anniversary Collection New Items !



品名: 100周年エコバッグタイプック
品番: 73039
価格: ¥880-(税込)
素材: タイベック
サイズ: 37×27 cm (取っ手収納時)



品名: 100周年手ぬぐい
品番: 73050「弥栄」(写真上)、
73051「ギア」(写真下)
価格: 各¥880-(税込)
サイズ: 35×90 cm



品名: 100周年ウォーターボトル
32oz Nalgene
品番: 73031
価格: ¥2,420-(税込)
容量: 32oz(946ml)



品名: 100周年布チーフリング
品番: 73040ロゴ、73041スカイブルー、
73042イエロー、73043グリーン、73044
ネイビー、73045レッド、73047セット
価格: 各¥330-(税込)、
セット[数量限定、再入荷]¥1,650-(税込)
サイズ: 約105×50 mm



この他、左デザイン各ステッカーや記念グッズなどさまざまなものを販売中です。
また、入隊・上進などに必要な「いつものもの」などのノベルティ付き限定セットなども
計画中ですので、ぜひお見逃しなく！

各商品の発売情報や詳細は、各販売協力店やホームページ、各種SNS、ONLINE SCOUT SHOPのメールマガジン等でお知らせしていきますので、ご確認ください。

発行 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3
電話 03 (6913) 6262 (代)

定価 ¥200 (税込)
郵便振替 00130-1-66119
口座名義 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟



SCOUT SHOP JAPAN
Official Shop of the Scout Association of Japan

